

2 研究の実際 > (2) 「強み」に関する活動プログラム

キ 検証内容と検証方法

(7) 検証内容

本研究では、児童生徒の「強み」に着目した交流活動を通して、児童生徒が自他のもつ「強み」を知ったり互いの「強み」を伝え合い認め合ったりすることで、自己理解と他者理解を深めるとともに自己肯定感を高めることにつながると考えます。また、児童生徒の自己肯定感が高まり互いに自他のよさを認め合う学級集団を築いている状態を、児童生徒が学級の雰囲気や学級での友達との関係を良好であると捉えている状態と考えます。そこで、以下の検証の視点及び方法で、児童生徒の「強み」に着目した交流活動の実践に関する効果を探りました。

(4) 検証方法

小学校 2 校（6 年生 24 名、6 年生 39 名）、中学校 2 校（3 年生 32 名、3 年生 37 名）、高等学校 2 校（2 年生 25 名、1 年生 41 名）の児童生徒を対象に、「強み」に着目した交流活動の実践前（7～9 月）と実践後（10～12 月）において「あなたのおよこ SAGA シート（自己肯定感チェックシート）」と「がばいシート」⁽¹⁾を実施しました。

◆「あなたのおよこ SAGA シート（自己肯定感チェックシート）」

このアンケートは、本研究で作成した、児童生徒の自己肯定感に関する意識を把握するシートです。「自分自身に関する自己肯定感」（「自尊感情」「自己主張・自己決定」）を問う 6 つの質問と「友達との関係を通じた自己肯定感」（「関係性」「自分は価値のある人間」）を問う 6 つの質問について、児童生徒の意識を問う内容で構成しています（回答は 4 件法で集約）。

◆「がばいシート」

このアンケートは、平成 20 年度に佐賀県教育センターが作成した、学級における集団や個人の状態を把握するシートです。「学級の雰囲気」「友達との関係」「自己存在感」「授業への意欲」「教師との関係」の 5 つの項目（それぞれ 5 つずつの質問）について、児童生徒の意識や行動を問う内容で構成しています（回答は 4 件法で集約）。

これらのアンケートを基に、検証の視点Ⅰでは、児童生徒の自己肯定感の変化について、検証の視点Ⅱでは、「学級の雰囲気」や「友達との関係」に関する児童生徒の意識と行動の変化について考察します。

【検証の視点Ⅰ】「あなたのおよこ SAGA シート（自己肯定感チェックシート）」

児童生徒がもつ「強み」に着目した交流活動が自己肯定感の高まりにつながったか。

視点Ⅰ－A：「自分自身に関する自己肯定感」に関する項目（質問 1～6）の合計

視点Ⅰ－A(a)：「自尊感情」に関する項目（質問 1、3、6）の合計

視点Ⅰ－A(b)：「自己主張・自己決定」に関する項目（質問 2、4、5）の合計

- 質問 1：「自分のことが好きだ」（「自尊感情」）
- 質問 2：「自分の良いところを生かすことができる」（「自己主張・自己決定」）
- 質問 3：「今の自分に満足だ」（「自尊感情」）
- 質問 4：「自分の中にはいろいろな可能性がある」（「自己主張・自己決定」）
- 質問 5：「自分の苦手なことを生かすことができる」（「自己主張・自己決定」）
- 質問 6：「自分のことが大切だ」（「自尊感情」）

視点Ⅰ－B：「友達との関係を通じた自己肯定感」に関する項目（質問7～12）の合計

視点Ⅰ－B(a)：「関係性」に関する項目（質問7、8、11、12）の合計

視点Ⅰ－B(b)：「自分は価値のある人間」に関する項目（質問9、10）の合計

- 質問7：「友達を信頼している」（「関係性」）
- 質問8：「友達の意見を素直に聞くことができる」（「関係性」）
- 質問9：「友達の役に立っていると思う」（「自分は価値のある人間」）
- 質問10：「友達から信頼されていると思う」（「自分は価値のある人間」）
- 質問11：「友達と一緒にいると安心できる」（「関係性」）
- 質問12：「友達に支えられていると思う」（「関係性」）

→各質問について、4件法の選択肢を、好ましい回答の順に「思う・4」「少し思う・3」「あまり思わない・2」「思わない・1」のように数値化して、各項目の質問に対する児童生徒の回答の合計の平均値を考察しました。

【検証の視点Ⅱ】「がばいシート」

児童生徒がもつ「強み」に着目した交流活動が互いに自他のよさを認め合うことのできる人間関係を築くことにつながったか。

※ 中・高等学校用の質問項目を列挙

検証の視点Ⅱ－A：「学級の雰囲気」の項目の合計

- 質問1：「あなたのクラスは、明るく楽しい雰囲気だと思いますか」
- 質問2：「あなたのクラスは、誰とでも話しやすい雰囲気だと思いますか」
- 質問3：「あなたのクラスでは、ルールが守られ、みんなが気持ちよく過ごせていると思いますか」
- 質問4：「あなたのクラスでは、誰かが悲しむような言動はありませんか」
- 質問5：「あなたのクラスは、問題があったとき、みんなで考え解決しようとしていますか」

検証の視点Ⅱ－B：「友達との関係」の項目の合計

- 質問6：「あなたは、仲間に入れてくれる友達がいると思いますか」
- 質問7：「あなたには、何でも話せて、分かってくれる友達がいると思いますか」
- 質問8：「あなたには、困っているときに助けてくれる友達がいると思いますか」
- 質問9：「友達は、あなたの秘密や約束を守ってくれると思いますか」
- 質問10：「あなたは、友達から傷つけられること（悪口、暴力、無視など）がありますか」

→各質問について、4件法の選択肢を、好ましい回答の順に「思う・4」「少し思う・3」「あまり思わない・2」「思わない・1」のように数値化して、各項目の質問に対する児童生徒の回答の合計の平均値を考察しました。

《引用文献》

- (1) 佐賀県教育センター 『平成 21 年度「個別実践研究」小・中・高等学校教育相談』
平成 22 年 3 月

https://www.saga-ed.jp/kenkyu/kenkyu_chousa/h21/10soudan/index_soudan.html